日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	アレンジ3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	恒枝	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、エンジニア		
学習目的					
1年次で学んだ内容を確実に活用できるようになり、与えられたリファレンス楽曲の音作りを参考にし、インサートエフェクトを駆使してサウンド傾向を再現したり、独自のものにできるよう工夫できるようになる。基本的にDAWの操作や音作りは、機械を扱うということであるため、耳だけでなく、音を加工するイメージが持てるように意識できるようになる。各楽器の音源ではデフォルトプリセットのみの使用で終わらず、そこからパラメータを調節して、自身がイメージする音色に変更してオリジナル楽曲に反映できることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード12～16に準拠して授業が進行する。 ギターの仕組み、サウンドや奏法、シンセサイザーの音の出る仕組み等の知識を増やし、楽器の特徴を反映したフレーズの打ち込みができる。モジュレーション系エフェクトの仕組みを理解し、幅広い音作りのテクニックを身につける。また、オーディオI/Oやシグナルの入力経路を理解し、録音に至るまでのプロセスを指導できることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ音楽性等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。コンピュータで作曲をするためには、どのような知識やテクニックが必要であるかを意識しながら受講する。さらに、どのようなスキルがあれば思い描いたサウンドが具現化できるかを考え、様々な情報を入手することを意識する必要がある。授業中の制作だけに留まらず、普段から世の中に出回る楽曲と自分のオリジナル楽曲を比較し考え、常に向上心を持って作曲技能や操作方法を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端の音楽等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	0%			
	小テスト	40%	グレード内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	40%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	1年次の復習	1年次に学んだ内容の復習。より制作スピードを上げることができる。			
2回	ギターの打ち込み(1)	グレード12対応。ギターの仕組みや奏法を理解し、打ち込むことができる。			
3回	ギターの打ち込み(2)	グレード12対応。ギターの打ち込みを作成中の楽曲に反映させることができる。			
4回	デジタルサウンド(1)	グレード13対応。ループ素材を活用できる。			
5回	モジュレーションについて(1)	グレード14対応。モジュレーション系の基本とその効果を理解する。			
6回	モジュレーションについて(2)	グレード14対応。モジュレーション系の各項目を理解し、トラックに適用できる。			
7回	デジタルサウンド(2)	グレード13対応。シンセ音源のプリセットを使用し、モジュレーションをかけることができる。			
8回	楽曲制作(1)	第7回までの復習をし、それらの知識を利用して1コーラスのデモ音源を作ることができる。			
9回	楽曲制作(2)	第8回の続き。デジタルサウンドを取り入れたデモ音源を提出する。			
10回	シンセサイザーについて(1)	グレード15対応。アナログシンセサイザーのサウンドの仕組みを理解する。			
11回	シンセサイザーについて(2)	グレード15対応。アナログシンセの音作りをし、メロディーラインを作成できる。			
12回	シグナルルーティング	グレード16対応。オーディオI/Oや入力経路、録音に至るまでのプロセスを理解する。			
13回	楽曲制作(3)	第12回までの復習をし、それらの知識を利用して1コーラスのデモ音源を作ることができる。			
14回	楽曲制作(4)	第13回の続き。デジタルサウンドを取り入れたデモ音源を提出することができる。			
15回	前期まとめ	デジタルサウンドを含む楽曲制作ができる。			